Definition of Safety Culture

Safety culture is that assembly of characteristics and attitudes in organizations and individuals which establishes that, as an overriding priority, nuclear plant safety issues receive the attention warranted by their significance. Safety Culture has two general components.
The first is the necessary framework within an organization and is the responsibility of the management hierarchy. The second is the attitude of stuff at all levels in responding to and benefiting from the framework.

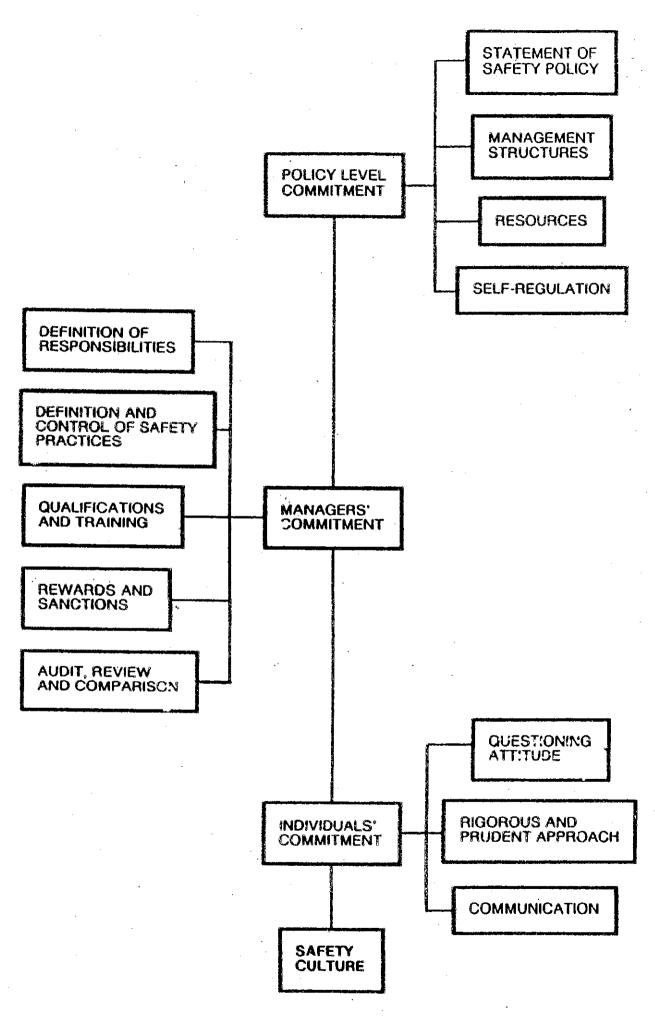


FIG 1 Illustration of the presentation of safety culture.

リスク評価の問題点

定量的・科学的評価 10^{-x} の危険率 社会構成としてのリスク

定量的・科学的評価のための エヴィデンスの存在しない領域

不安とは個人的なものではない

個人と社会との相関から

生まれるものである

ヒューマン・セキュリティ

不安解消の保障

個人が社会的な不安を 感じることなく暮らせる 権利

安全とは

単に危険から免れている状態だけ ではない 人間が築き上げていくよりよい目標

専門家と非専門家

非専門家には充分な知識がない 専門家は非専門家の不安の本質を知らない

意志決定における専門家の「独裁」

参加型技術評価(pTA)の可能性

専門家(技術者)の責任

非専門家との乖離距離の縮小申告制度とモラル

precautionary principle の容認

安全対策は終わったと思った瞬間から 劣化する

コンセンサス会議

ヨーロッパ発 議会に所属

例えばスイス技術評価センターの 第一回(1998)のイッシューは 「電力と社会」であった

INSAG-4

International Nuclear Safety Advisory Group 1991

International Atomic Energy Agency
(IAEA)